社説

米布合併條約

米布兩國の間に合併條約の調印濟みとなりたる旨は昨日の號外にて報じたるが如し抑も兩國合併の議は敢て今回に始まりたるに非ず久しき前よりの議にして双方の説區々なる中にも四五年前布哇の共和政府にて合併の議を決し委員を米國に特派して交渉に及びたるも時の大統領クリーブランド氏は斷然不同意を唱へて之を拒絶したるにぞ其儘立消えとなりしにマッキンレー氏の就任以來又もや合併の説を主張するものあるよし往々耳にする所なりしが兩國の協議いよ〳〵熟して條約の調印濟みと爲りたるものなる可し敢て怪しむに足らざれども左るにても合併問題は目下差迫りたる事件に非ず且つ米國從來の國論に徴するも合併に就ては左まで熱心ならざるが如くなりしに此際調印を急にして開會中の臨時議會に提出するの運びに至りしは少しく解す可らざるに似たり或は今回我政府が移住民に對する處置を不當として布哇政府に談判を試み又一方には人民保護の爲に軍艦を派遣したるより兼々合併を希望しつゝある彼の國人等は之を好機會とし日本は布哇併呑の野心を懷くものなりなど巧に説を設けて同臭味の米國人と相結び該政府を動かしたる等の事情もあり旁々以て事の急を促したるものには非ずやとの想像說もなきに非ざれども其邊の事情は兎も角もとして差當り我が事理の簡單明白なるものなれども對手は獨立國と云ひながら恰も各種の外國人寄合ひの一孤嶋にして隨て政府の當局者とても殆んど無責任の姿なれば斯る小國に對して眞面目の談判は事理の止むを待ざる處とは云ひながら少しく氣恥かしき感なきに非ざりしに若しも合併の實いよ〳〵行はれて政府の主權が米國に歸することもあらんには談判の運びは容易にして我正當の要求を認むるに至ることならん此一點より見れば我輩は寧ろ其合併の速に行はれんことを望むものなれども然れども更らに翻て事の關係を眺むれば布哇の土地は彈丸黑子の孤嶋に過ぎざれども位置は東西海路の要衝に當りて其得失は世界海國の利害に關する所少なからず殊に英國の如きは加那陀地方より濠洲及び東洋に至る航路聯絡の爲めに重きを置く場所にして畢竟今日に至るまで恰も中立の土地として孰れの所屬にも歸せざりしは是等の關係あるが爲めに外ならず左れば其合併に就ては各國の異議を免る可らざるは勿論ならんなれども是れは自から別として差當り米國の國論を見るも從來反對の說頗る盛なるが如くなれば果して之を承認するや否やは未だ知る可らず本社に達したるロイテル電報に據ればマッキンレー氏は關稅問題の落着を待て右の合併案を議會に提出す可しと云へば(同國の憲法に從へば條約は元老院の出席議員三分の二の同意を得て效力を生ずるの定めなり)孰れにしても遠からざる中に決することならん我輩は其成行に注目して[illegible]ざる可し

○東海道の繭市場(三)

通覽生

●●●●●●●●相場の下らざる事實

東海道各地繭市場取引の方法は以上の如くにして相場は唯買人の競爭に依りて定まるものなれば製絲家に於ても毎年季に先ちて種々の臆測を下し互に割安に仕入れんとして市場に現はると雖も從來の經驗上一度も成功したることなくして互に競爭する爲め大概は横濱の生絲相場より割高なるを例とするこそ是非なけれ殊に昨年度の如きは三井組といへる不意の競爭者此間に現はれて天下の繭は殘りなく三井に吸收さるゝかの如き感を起したるもの少なからず從て我れ勝ちに買廻りたる連中には頗る高價に仕入れたるも多かりしならん三井が如何に金力ありと云ふと雖も共有する製絲の釜數に限りありて消費す可き繭の數にも定量あり天下の繭を殘りなく買占めて何の利益かある可き然るに他の同業者が只管三井の名を聞いて驚きたるは三國同盟を買冠りたるよりも笑止なり然しながら三井が一時其看板を持ち廻りて百萬石も二百萬石も朝飯前に買込まんとする色を示し無暗に競廻りたるは一時の策略かは知らざれども將來繰返して行ふ可き方法にはあらざる可し如何と爲れば其聲を高うして煽り立つるは相場師の業にして三井の如き金穴の所爲に非ざればなり其看板は三井が自身に信ずるよりも世人が信ずる方却て大なるものある可し

斯くの如く昨年度の繭市場は一時三井に橫槍を入れられて大波瀾を起したれば本年の如き信州地方の製絲家は之と競爭するの非なるを覺りけん東海道に出づるもの餘り多からずして唯三嶋地方の市場に其顏を見たるのみなりと云ふ是れ同地方は收繭の最も早き所にして江戶子の初鰹魚を賞翫すると同じく全國各地の製絲家が初物を賞翫すればなり然るに其後は三井組に於ても愛知三重の兩製絲所に命令して海道筋の繭は一時其仕入れを中止せしめたるやの說あり依て當事者に就いて聞けば全く中止には非ざるも法外の直段を以て仕入れざる樣指圖ありしなりと是に於てか濱松に於ける同出張所は先づ閉鎖して引揚げ其他各地とも手を縮めて相場の出逢を待ものゝ如くなりしも予が通覽中には各地とも未だ容易に其相場下降の色なく名古屋の如きは殊に手堅く持合ひたり是れ要するに前に述べたる如く繭の產額本年は昨年より減じたるに似ず製絲場は比年此地方に增加したるが爲め三井に依賴せざるも信州に賴まざるも繭の消費には差支せざるが故にして今統計書に依り愛知靜岡兩縣の製絲釜數を見るに(二十八年度)

縣名	釜數	一年の製造高
愛知縣	五、二九九	一八三、六二九斤
靜岡縣	一、七七〇	九八、三三六斤
計	七、〇六九	二八一、九六五斤

即ち名古屋以東三嶋に到る海道筋地元の生絲產額は洋俵にして二千八百餘個の產ありて假に原料の繭一升より九匁の生絲を採るとする時は五萬石餘を要する筈なり然るに兩縣の生產額として統計年鑑に示すところは(二十八年度)

靜岡　二四、七七三石　愛知　六六、五九一石

にして殆んど九萬石以上なり故に以上の統計調製後に設立されし三井の製絲所及び其他を加ふる時は東海道の各地は繭の生產力よりは其消費力遙に進步したるものにして過剩の繭は幾何もあらざるなり從て其價の下落せざるも又無理ならずと云ふ可し然しながら製絲家の何は競爭して之を購入せんとするには多少の利益を見込まざる可からずと雖も現今の相場にて其收利ありや否や予は之より製絲家の胸算用を述ぶ可し

○小笠原嶋の實況

衞生その他一般の風俗視察の爲め小笠原嶋に渡航して此程歸京したる某氏の談話を左に揭ぐ

●●●●●●鎮西八郎は疱瘡除け　御承知の通り本年二月小笠原嶋に天然痘が出た、けれども彼處らでは鎮西八郎爲朝が來て居つたといふ所から住民は決して天然痘杯はしないと云ふを確信して居る、爾ういふ嶋であるから天然痘の豫防杯には少しも注意しない、殊に八丈嶋では總人員の半分も天然痘の爲めに死んだ事がある、夫故小笠原嶋に天然痘が發したと云ふことを聞いて驚いた殊に痘苗はなし豫防策としては如何することも出來なからうといふので、兎に角痘苗を携へて檢疫に遣られたんです、其傍御承知の山根三部長の特別の命令で其他の事柄も遊びながら視た位、ソレが今度行つた目的です

●●●●開墾地の模樣　小笠原嶋は開墾地として各國の人が集つて居る、尤も其半分は八丈嶋の喰詰者が行つて居るのでありまして實に亂暴な開墾地、彼處に居る人は何れも永遠の考はなく唯天惠にのみ依賴して一時の巨利を貪ることばかり企つて居つて其仕事の仕方に就ては實にいふに忍びんことが多い、例へば開墾地の重なる物產は甘蔗の製造であるが甘蔗は唯開墾地に樹を伐つて植付けて置くだけで肥料も施さなければ耨りもせず雜草と同樣に放任して置くのみならず天惠を利して一時に暴利を占めやうと云ふ考から有限の地に無限の種子を植ゑるものですから土地は益々枯れ從つて收入も寡くなつた、

●●●●燃料の缺乏　單に土地が荒れて收入が寡くなる許りでなく昨今に至つては砂糖の製造上必要欠くべからざる燃料に乏しくなつた、乏しい處ではない自分等が朝夕喰ふ所の米を焚く材料さへ殆んど盡きかゝつて居る、最う一二年も經過したら全く燃料が盡きて或は遂に滅亡でもするより外なからうかと思へて居る人もあるですな、是れは濫伐の結果で嶋の有志者及び今回赴任した阿利嶋司も殊の外之を心配して此度夫等の用向をも兼ねて態々上京して來られた

●●●●石炭の利用　斯う燃料が乏しくなつては仕方がないから石炭を供給して遣らせると云ふやうな方針で居る人もある、併し私共の見る所では是迄薪を燃した竈を急に石炭を焚くやうに改良すると謂ふことが出來るか何うか、第一竈の改良が餘程困難である、若しそれが出來るならば政府が少し保護して遣れば砂糖製造の發達を促す大なる助けになるだらうと思ふ、燃料が不足すれば從つて製造業が衰頽する譯であるから是れは輕々看過すべき事でないと思ひます、御承知の通り開墾地は無稅地ですから內地の製造業に比すれば殆んど倍以上の純益があると云ふことです甘蔗の培養を改良すると同時に燃料の供給をする道を付けなければなります

まい
●●●●官有地拂下の　求めて山林な
拂下を受けるの
際は二萬坪も二
づ山林の拂下を
ら砂糖を樹えて
ふ手續、詐り申
すからア極
●●溫度　は高い
から一年三百
得られるです
●●人口　は現今
●●產業　重なる
坊、鰹節其他
●●輸出入　是迄の
萬圓位に達し
居る甘蔗の凶作
百五十五圓に
額なれども差
かつたさうで
八百十圓、生
六圓、パイン
桑、木耳等に
小笠原嶋に流
づある、ソレ
からざる流通
などはない、
て行くのであ
借りて置いて
で仕切つて貰
哩以上もある
に往く人は少
に物品を高價
がある、ソレ
颶風があつて
時としては非
商人の方では
とが出來んか
は益々殖える
の農產物で
者になると定
つて些とも出
何することも
す「此處で商
んで居るやう
一方の足が泥
一旦南洋貿易
は行かん」と
價格とは非常
數年前より
に南洋の產業
を開いて十數
て內地の物價
又一面に比現
ば人民が避